

授業科目名	劇場プロデュース実習2	担当教員	近藤 のぞみ 尾西 教彰 井原 麗奈 大野 はな恵			
必修の区分	選択					
単位数	2 単位					
授業の方法	実習					
開講年次	3年 第2クオーター					
講義内容	<p>劇場現場での実務を通じて、芸術・文化に対する理解を深めるとともに、企画制作、広報・宣伝、地域との関わりなど、劇場・音楽堂等のソフト運営における基礎となる要素を体得し、劇場運営に関わる職業能力を修得する。</p> <p>劇場プロデュース実習1の続編となり、劇場現場における仕事をこなすだけでなく、社会において劇場が存在する意味を考えながら、劇場ができるなどを企画し、提案できる視点を養う。</p>					
到達目標	<p>①劇場の業務を実際に行うことができる</p> <p>②その劇場を使う際のお客様との基本的な打ち合わせ内容を理解し、実施することができる</p> <p>③劇場のプログラムや役割を理解し、劇場関係者や来場者と適切なコミュニケーションをとることができる</p> <p>④その劇場と地域との関係を観察し、企画を立てることができる</p>					
授業計画	<p>舞台設備のある文化施設で、約2週間の臨地実務実習を行う。</p> <p>実習前の事前学習として、実習施設や関連事項を調査し、実習計画書を作成する。</p> <p>必要に応じて、実習先の指導者と専任教員、学生で面談を行う。</p> <p>実習中は、実習指導者のもと、実際の劇場制作業務に従事し、専門スタッフによるレクチャーを受けることによって、劇場にとってのミッションを理解し、劇場運営の基本を習得する。</p> <p>中間時点及び最終日には、学生による報告会を実施するほか、最終日には劇場関係者等との意見交換会を実施する。</p> <p>事後学習として、学生は完了報告書を作成し、担当教員指導の下、学内実習報告会で発表を行い、劇場制作業務の実践への理解を深める。</p>					
事前・事後学習	参加する学生は必ず事前研修を受け、事後に実習成果の完了報告書を作成し、学内実習報告会において発表を行うこと。					
テキスト	特になし。					

参考文献	適宜指示する。
成績評価の基準	実習の態度・日誌 (70%)、実習報告レポート・プレゼン (30%)
履修上の注意 履修要件	全日程に出席できることを参加条件とする。 1日の実働時間は8時間（休憩1時間を含む）を基本とする。 劇場現場の性格上、業務の必要に応じて変則時間となる場合がある。 ※具体的なスケジュールは、劇場担当スタッフと相談の上、後日確定する。
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	実習受入先の受け入れ人数を越える履修希望者があった場合は、志望理由書を元に選考して履修者を決定する。 尾西 (n_onishi@stdat.at-hyogo.ac.jp) 近藤 (nozomi_kondo@stdat.at-hyogo.ac.jp) 井原 (i.rena@stdat.at-hyogo.ac.jp) [*を@に変更]